

第6学年1組 道徳科学習指導案

1 主題名 相手の気持ちに寄り添って

2 教材名 「悟の失敗」(改作)
(出典:文部科学省 「情報モラル」指導実践キックオフガイド)
B【親切、思いやり】

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値や指導内容について

平成29年7月に公示された「小学校学習指導要領解説 道徳編」のB一(7)「親切、思いやり」は、「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。」をねらいとしている。

人間関係を構築していく上での基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもつことや、親切に接していくことが挙げられる。思いやりとは、2つの要素からなると考える。1つ目は、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助を行うことである。2つ目は、相手のことを考えて温かく見守ることである。両者には、相手のことを親身になって考えようとする心が根底にある。相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けようとする態度が重要である。

この時期の児童は、他者と触れ合い、助け合って何かをするような機会が増えていき、思いやりの心をもつことの大切さについて考えられるようになってきている。また、低学年の児童に対して優しくしようという気持ちが自然と生まれ、親切にすることや思いやりの心をもって行動したいと考える児童も増えてきている。しかし、頭ではわかっているにもかかわらず簡単に実践できないことが多い。それは、日常生活の中には、人々の諸事情や様々な考えが複雑に絡み合っているからである。

社会の情報化が進展する中、児童は、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っている。「学習指導要領解説」の「情報モラルと現代的な課題に関する指導」には、「問題の根底にある他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて児童が考えを深めることができるように働き掛けることが重要になる」と示されている。情報モラル教育は、「知恵を磨く領域」と「心を磨く領域」の大きく2つに分けることができる。「心を磨く領域」の指導を充実させるためには、情報社会においても日常生活と同様、相手を思いやる気持ちが大切であるということ、児童に実感させなければならない。

情報モラルの面から考えると、中学校進学と同時に携帯電話を持つ児童が増加することは、全国的なデータからも明らかであり、携帯電話等を利用して起こる犯罪やネットいじめ等に巻き込まれる可能性も大きくなる。そのため、学校において情報モラル教育の重要性を改めて認識するとともに、小学校段階から、児童の情報モラルを高めていく必要があるといえる。

今後、たくさんの人と関わりながら成長していく児童に、情報モラル教育を通して、思いやりとは何かについて考え、優しさと適切な判断力を育てるとともに、相手の立場に立った行為につなげていき、潤滑な人間関係を築いてほしいという願いから本主題を設定した。

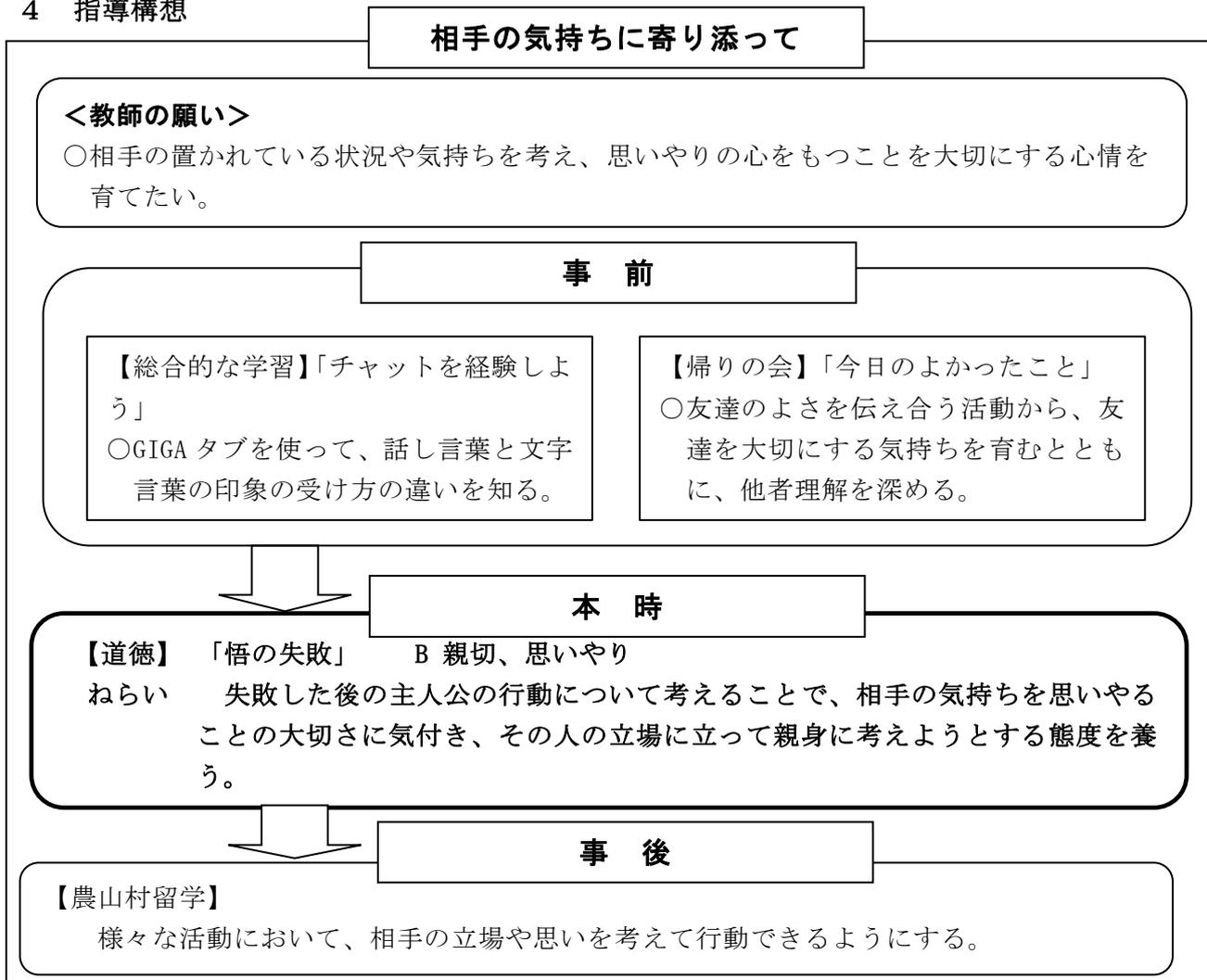
(2) 教材について

本教材は、サッカーの試合で失敗をしてしまった健太に対して、励ましのメールを送ったつむりの悟が、その内容に思いやりの心が足りていなかったことに気付く教材である。今回、場面が

想像しやすい様に、2人の関係性を具体的に示し、微妙な心情の変化を児童に読み取らせたいという理由で、一部改作をした。

メールは自分の送りたいときや離れた相手にも思いを伝えられる良さがある。その一方で、顔の見えない相手に対して、自分の思いを正確に伝えられないこともある。そこで、メールを送った後の主人公の行動について考えることで、相手の状況や立場に立った思いやりのある行動とは何かを考えられるようにしたい。

4 指導構想



5 本時の指導

(1) ねらい

失敗した後の主人公の行動について考えることで、相手の気持ちを思いやることの大切さに気づき、その人の立場に立って親身に考えようとする態度を養う。

(2) 展開

過程	学習活動と発問	指導の手立て
<p>導入 ③</p> <p>展開 ⑫</p> <p>⑮</p>	<p>1 思いやりについて考える。</p> <p>○思いやりのある行動とはどのようなものでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えて行動すること。 ・困っている人を助けること。 <p>2 教材を読んで、登場人物の心情を理解する。</p> <p>○得点を決められて負けてしまった時の悟はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悔しい。 ・せつかいい試合をしていたのに。 ・健太が転んでなければ…。 <p>○健太にメールを送っているときの悟と、メールをもらったときの健太はどんな気持ちでしょうか。</p> <p>【悟】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち込んでいたし、はげましてあげよう。 ・気持ちを切り替えてほしい。 ・大丈夫かな。 <p>【健太】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うるさいな。 ・俺のせいなのはわかっているよ。 ・落ち込んでるのにそんな言い方ないだろう。 ・励ましてくれているんだろうけどな。 <p>3 自分だったらどうするかを考え、プリントに書き、小グループで聴き合い活動を行う。その後、全体で共有する。</p> <p>◎自分だったら、この後どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接謝る。 ・手紙を書いて気持ちを伝える。 ・友達に相談にのってもらおう。 	<p>○具体的に身の周りにどのような思いやりがあるかを考えさせることで、ねらいとする価値への方向付けを行う。</p> <p>○悟はどんな失敗をしたのか考えながら聞くように、視点を与える。</p> <p>○登場人物の関係性に注目しながら、悟の心情を考えさせる。</p> <p>○メールの画面をテレビに映し、心の中で読むように伝える。</p> <p>○落ち込んでいた健太に対して元気づけようとする悟の気持ちと、落ち込む健太の気持ちを考えることで、2人の心情の違いを考えさせる。</p> <p>○全員が聴き合い学習に主体的に参加できるように、ワークシートに自分の考えを書けているか確認し、聴き合い活動の中で、主体的に自分の意見を伝えられるようにする。</p> <p>○聴き合い学習のルールを再度確認することで、共感的に聴くことができるようにする。</p> <p>○方法論で終わらないように、共通することは何かを考えさせる。</p>

<p>終末 ⑦</p>	<p>4 今後の自分の生活や態度について考える。 ○思いやりをもって接するためにはどのようなことが大切でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷つけてしまった後からどんな行動をするかが大切。 ・相手のことを考えて行動したり、発言したりすること。 ・メールなど、顔が見えない相手にも気持ちが通じるように文を送りたい。 	<p>○思いやりをもって接するために必要な考え方や思いを想起させたり、板書を確認したりすることで、相手の気持ちを考えることが大切だということを確認する。</p>
<p>⑧</p>	<p>5 本時の振り返りを行う。 ○今日の学習を通して、考えたことや感じたことを振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある行動は相手に伝わると思うので、これからはこころがけていきたい。 ・相手のことや気持ちを考えることの大切さを改めて知った。 	<p>○本時で学んだことをこれからの生活に生かせるようにするために、学んだことをワークシートに記述させる。</p> <p>○自分事として振り返ることができるよう、これまでの自分、今日の学習で考えたこと、これからの自分を振り返りの観点として提示する。</p> <p>◇相手のことや気持ちを考えて行動することの大切さを考えているか。 (ワークシート)</p>

8 板書計画

「悟の失敗」

◎思いやりのある行動とは？

- ・相手のことを考えて行動すること。
- ・困っている人を助けること。

◎自分だったらこの後どうしますか。

- ・直接会って謝る。
- ・手紙を書いて気持ちを伝える。
- ・友達に相談にのってもらう。

<思いやりのある行動>

- ・相手の気持ちを考えて行動する。
- ・自分だけの思いを一方向的に伝えない。
- ・メールを送る時は気持ちがきちんと伝わるか考える。

教材「悟の失敗」

同じクラスの悟と健太はとても仲良し。休日にサッカーを習っていて、2人はいいコンビだ。練習の時は「ボールいくぞ。」

「おお！」

「何やってんだよ、どじだなあしっかりとれよ。」

「何言ってるんだ。悟こそ弱チヨロボール。ちゃんと届くような玉をけれよ。」

などと、大声で言いながらサッカーを楽しんでいる。

「ひどい言い方、けんかになるよ。」

とまわりから言われても、

「心が通じ合っているから平気平気！」

と悟は言って、あいかわらず楽しそうにサッカーをやりながら大声で話している。

そんなある日試合があった。大きな大会の初戦で、とても大事な試合だ。両チームとも互角で、試合は接戦になった。後半の終了間際。敵のゴール前まで攻め上がり、チャンスだ。悟がかけたパスを健太が取ろうとした。しかし、次の瞬間、健太はつまずいて転んでしまった。ボールは敵に取られて一気にピンチになってしまった。(まずい…!)健太は必死になって相手を追いかけたが、そのまま相手にゴールを決められ、試合は0対1で悟達のチームの負けで終了した。悟は何とも言えない気持ちになった。

その日の夜。悔しい気持ちでいっぱいだったが、転んでしまった健太が気になって、励まそうと悟はメールを送った。ところが返事は来なかった。

次の日。健太の態度がどうもおかしい。ろう下の向こうからやって来た健太に、悟は声をかけようとした。いつもならすぐにあいさつをしてくれるのになぜか悟を見ないようにしてさっさと行ってしまい避けている。

(なんだよ、健太ったら…)

悟は首をかしげた。

「なあ、悟。健太と何かあったのか？健太、元気がないように見えるけど？」

「ああ…実はさ…。」

放課後、悟と一緒に遊んでいた友達の真司に質問をされ、メールの画面を見せて相談した。

すると真司はメールを見るなり

「これがはげましのメール？これじゃ健太が悟と会いたくないのも無理ないよ。落ち込んでいる時にこんなメール来たら、ますます落ち込むのは当然だよ。ぼくだってこんなメールいやだよ。」

とあきれた表情で言った。

悟は驚いて「えっ、いつも話しているようにメールをしたんだけどなあ……。」と、もう一度メールを読んで考え始めた。

同じクラスの悟と健太はとても仲良し。休日にサッカーを習っていて、2人はいいコンビだ。練習の時は
「ボールいくぞ。」

「おお！」

「何やってんだよ、どじだなあしっかりとれよ。」

「何言ってるんだ。悟こそ弱チヨロボール。ちゃんと届くような玉をけれよ。」

などと、大声で言いながらサッカーを楽しんでいる。

「ひどい言い方、けんかになるよ。」

とまわりから言われても、

「心が通じ合っているから平気平気！」

と悟は言って、あいかわらず楽しそうにサッカーをやりながら大声で話している。

そんなある日試合があった。大きな大会の初戦で、とても大事な試合だ。両チームとも互角で、試合は接戦になった。後半の終了間際。敵のゴール前まで攻め上がり、チャンスだ。悟がかけたパスを健太が取ろうとした。しかし、次の瞬間、健太はつまずいて転んでしまった。ボールは敵に取られて一気にピンチになってしまった。(まずい…！)健太は必死になって相手を追いかけたが、そのまま相手にゴールを決められ、試合は0対1で悟達のチームの負けで終了した。悟は何とも言えない気持ちになった。

その日の夜。悔しい気持ちでいっぱいだったが、転んでしまった健太が気になって、励まそうと悟はメールを送った。ところが返事は来なかった。

次の日。健太の態度がどうもおかしい。ろう下の向こうからやって来た健太に、悟は声をかけようとした。いつもならすぐにあいさつをしてくれるのになぜか悟を見ないようにしてさっさと行ってしまい避けている。

(なんだよ、健太ったら…)

悟は首をかしげた。

「なあ、悟。健太と何かあったのか？健太、元気がないように見えるけど？」

「ああ…実はさ…」

放課後、悟と一緒に遊んでいた友達の真司に質問をされ、メールの画面を見せて相談した。

すると真司はメールを見るなり

「これがはげましのメール？これじゃ健太が悟と会いたくないのも無理ないよ。落ち込んでいる時にこんなメール来たら、ますます落ち込むのは当然だよ。ぼくだってこんなメールいやだよ。」

とあきれた表情で言った。

悟は驚いて「えっ、いつも話しているようにメールをしたんだけどなあ……。」と、もう一度メールを読んで考え始めた。

悟から健太への電子メール

題名 ちゃんとやれよ 健太！

本文 健太へ

今日の試合は残念だったな。せっかくおれがいいパスを出してやったのに、かんじんなところどころぶなんて、どじだよな。試合にもまけちゃうし。ころんだけど、足、けがしなくてよかったな。次の試合ではちゃんとやれよ。

悟より